

2年次「総合的な学習の時間」の指導計画と取り組み

－ 韓国校外学習に向けて －

2年次 金城幸廣・福原行也・後藤巻子・竹内義晴
倉井庸維・鈴木正徳・杉村祐美子

本校における2年次の「総合的な学習の時間」については異文化理解の観点から「韓国校外学習」への取り組みを行い、一年間かけて学習ノートや様々な教材を提示し、異文化について理解を深めさせた。また、それらをもとに生徒が興味関心に応じた個人研究テーマ設定を行い個人研究レポートを作成した。また、実際に韓国校外学習を通して、研究論文の検証を行った。

キーワード：総合的な学習の時間、異文化理解、個人研究レポート、語学学習。

1. はじめに

新学習指導要領は高等学校の場合、平成15年度からの実施であるが、本校は1年先取りし、平成14年度から「総合的な学習の時間」を教育課程に取り入れた。言うまでもなく「総合的な学習の時間」は新学習指導要領の目玉として注目されており、戦後の学習指導要領の変遷を見てもこれほどの大きな枠組みの変更はかつてなかった。平成元年改訂で「生活科の新設」があったが、

「総合的な学習の時間」の導入は初等・中等教育を貫くものであり比喩のものにならないほど大きな変革である。

文部科学省からは学習活動の課題として「例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、児童の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特徴に応じた課題など」と提示している。文部科学省は4テーマを同じ比重で並べているが、「学習者の興味・関心」「教師が考える価値ある課題」「時代の中心課題」を考察し、環境をテーマとした「総合的な学習の時間」の展開を推奨している論文も見られる。本校でも何をテーマに実施すべきか議論があったが、2年次の3月に校外学習（他校の修学旅行に相当）という行事が組まれており、その校外学習の研修先が韓国であることから、2年次の「総合的な学習の時間」では「国際理解」をテーマとすることがベストであるという結論に至った。

さて、平成14年度の2年次の「総合的な学習の時間」の特徴は次の6点である。

- ①異文化として校外学習の研修地である韓国文化を取り上げる。
- ②異文化理解の基礎として自国文化の理解に配慮する。
- ③韓国に関する個人研究を課す。生徒は興味関心に応じたテーマを設定し、研究論文作成にあたる。

④論文作成の指導は、該当年次だけが当たるのではなく、全校体制とする。

⑤三月の校外学習で個人研究成果を確認する。

⑥プレゼンテーションを重視し、構想発表会、中間発表会、最終発表会を行う。

また、三月に実施する校外学習の内容が本論の「総合的な学習の時間」の展開に影響するので、平成14年度の2年次校外学習の特徴を述べる。次の4点になる。

①韓国都市（ソウル）と韓国郊外（江原道）の両方を校外学習コースに含める。

②韓国文化の実像に迫るためにホームステイを実施する。

③語学学校のプログラムを導入し語学修得に力を入れる。

④江原道の高等学校と交流会を行う。日本文化と韓国文化を披露しあうと同時に生徒同士韓国語・英語を使って人間的・人格的な交流を行う。

以上、「総合的な学習の時間」と「校外学習」の大枠を示したが、本稿を作成する時点で「総合的な学習の時間」の計画すべてが終了したわけではない。本稿は平成15年1月までに実施した取り組みを紹介し、各取り組みの成果及び問題点を明確化するものである。

2. 2年次「総合的な学習の時間」の指導計画

(1) 特徴

本校における「総合的な学習」の取り組みは異文化理解ということを中心とし、韓国について、様々なテーマで個人研究を行う。更に韓国校外学習を通して、総合的な学習の実践を行い、校外学習終了後、研究テーマの完成を行う。

(2) 総合的な学習年間指導計画

「総合的な学習」のねらいとして「各学校が地域や学

校の実態等に応じて創意工夫を生かして特色ある教育活動を展開することである。本校の持つ特色と2年次という学年の持つ特色から、「異文化理解」というテーマで取り組みを行った。

また「総合的な学習の時間」のタイプとして「課題研究」型と「クロスカリキュラム」型の複合型のニュアンスが強い。すなわち、異文化理解の対象とした韓国に焦点を置き、自らテーマを設定して探求する姿勢を持ち、設定したテーマを年次、各科より指導アドバイスを受け、研究課題を内容深い物に仕上げて行く方針である。

(3) 異文化理解の目的

- a) わが国と異なる国の伝統・文化・産業等を中心として課題を設定し、自ら課題設定を行う能力を養う。
- b) 設定した課題を文献調査等、様々な角度から調べることにより、課題に基づく探求心を養成する。
- c) 他国の文化を探求することにより自国の文化を再認識し、「自ら考える能力」の育成を図る。
- d) 課題に関連した事を中心として専門的な観点からアドバイスを受け、テーマのより深い内容にすることの発展性を習得する。
- e) 設定したテーマを発表することにより、プレゼンテーション能力の育成を図る。
- f) 異文化理解について調査・研究した内容を実践する機会としての手段として語学学習を学習する。
- g) 交流会を通してコミュニケーション能力を育成する。
- h) 実際に異文化理解の対象とした韓国への校外学習を通して実践を図る。
- i) 調査・研究、実践の集大成として課題を完成させる。

(4) 総合学習の方法・実践

上記の目的達成のために以下に年間学習計画を行う。

- a) 1年次終了時点までに、担任・副担任より韓国について様々な角度からガイダンスを行い課題テーマ設定を行う。そのテーマを基に春休み様々な角度から調査を行う。
- b) 2年次となり下記、計画に基づいて総合学習の意味を理解させながら2年次団を中心として指導を行う。
- c) 各種アドバイスにより最終テーマを決定し、学習目標を計画し、実行する。
- d) 調べ学習において各科(9科)と担任団とともにアドバイスをを行う。
- e) 自ら設定したテーマを担任団、各科、系列より指導アドバイスを受け内容深いものにする。

f) 語学学習により力を入れる。ホームステイを行う為、実際に活用できる語学力を養う。

外部業者の導入により工夫あるプログラム導入等を行う。

g) 筑波大学の韓国留学生による講師の導入や様々な立場からの外部講師を依頼する。

(5) 年間計画の流れ・目標

4月～5月 1年次において設定したテーマをより深い内容にするため、総合学習と異文化理解の意味を認識させ様々な角度から指導を行う。

6月～7月 テーマを最終決定し各科を中心として専門的な立場から各テーマに基づいたアドバイスをを行う。

夏休み テーマに基づき、様々な角度から調査・研究等を行う。

9月～11月 黎明祭時の中間発表に向けて、まとめとプレゼンテーション能力の育成を図る。

12月 語学学習に向けてガイダンスと語学学習の方法を学ぶ。

冬休み 中間発表した後のテーマについて発展を行い、語学学習を行う。

1月～2月 語学学習の充実と、実践に備えた研究を行う。

(語学学習は、大学に通う、留学生や外部業者等を予定)

校外学習(韓国) 3月11日～15日

校外学習終了後、テーマの研究・調査と実際についてまとめる。(春休み)

3年次、4月に最終発表を行う。

3. 韓国校外学習の取り組み

(1) 担任団による韓国講座

1年次の2月から地歴公民科教諭による韓国講義を皮切りに、2月25日から3月13日まで正副担任合わせて8名による韓国に関連した20分の講義をクラスを変えながら行った。

題名	担当者
韓国孤児の母ー田内千鶴子ー	福原
韓国の買い物事情	對崎
韓国の食と嗜好	後藤
私の韓国体験記	建元
韓国現代史初級入門	竹内
5期生韓国校外学習	金城
一板門店を訪ねてー	

(2) 留学生講話

韓国留学生の講話および交流会は、講演会、ハンゲル講座と2回行われた。

a) 講演会について

筑波大学院生具乗洙さんに来校いただき、「韓国と日本の生活習慣や考え方の違い」について、総合的な学習の時間に2学次全体に50分間講演していただいた。日常生活の違いや見方・考え方の違いを提示していただき、わかりやすい講演であった。特に、外国に行くことによって、自国の文化を「相対化」することができるというメッセージが大変印象的であった。具さんには、個人研究中間発表会（10月21日）にも来校していただき、発表に対してコメントをしていただいた。

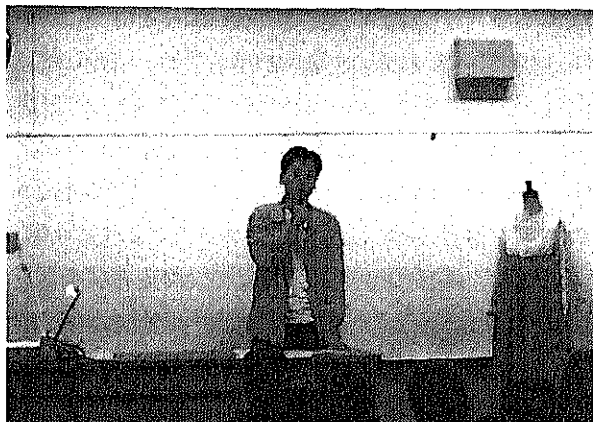


写真1（中間発表会のコメント）

b) ハンゲル講座

12月19、20日（木、金）の2日間に渡って、午後1時30分から3時30分の2時間、東京学芸大学と大東文化大学から留学生が来ていただき、ハンゲル講座と文化の違いなどの講演をクラスごとに行った。

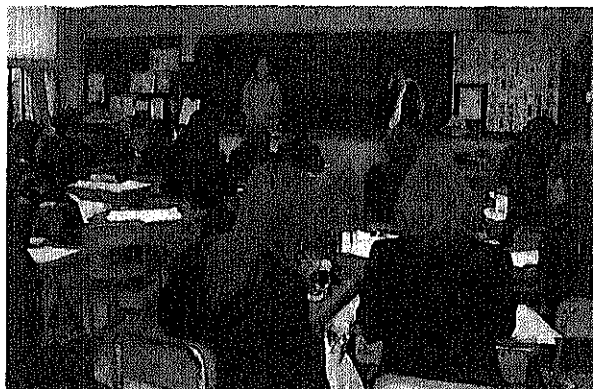


写真2

19日は、東京学芸大学から3名、大東文化大学から2名、20日は、東京学芸大学から5名、大東文化大学

から4名であり、大東文化大学の留学生は、2日間で異なっていた。テキストは、本校在校生の姉が、東京学芸大学に在籍していたので、作成していただき、それを用いて行った。また、保護者へも参加を呼びかけ、各クラス数人の参加者があった。

当初、ハンゲル講座を担当してくれる韓国留学生が決まらず、埼玉大学の留学生交流センターから斡旋していただき、1週間前にめどが立つような状況であった。

(3) 芸術鑑賞会

国際理解教育の一環として校外学習を位置づけており、「総合的な学習の時間」での学習内容は訪問国である韓国に焦点があてられることが多い。しかし、一般に指摘されるとおり現代の若者の日本文化に対する理解は浅く、二年次担任団でも日本文化の理解につながる企画の必要性を感じていた。

国語科の協力をお願いし、一年次で学んだ必修科目「国語Ⅰ」の学習を基礎とし、古典芸能に親しめる内容を企画した。国立劇場で「仮名手本忠臣蔵」を公演する時期に「芸術鑑賞会」として実施した。夏休み直前の土曜日、7月13日に行った。

また、当日はイヤホンガイドを利用し、場面の説明を聞きながら鑑賞することになっていたが、理解を深めるためには歌舞伎の見方等を説明する事前学習が必要と考え、7月1日に行った。国語科教諭に「歌舞伎の見方」「赤穂浪士討ち入り事件」「五段目・六段目のあらすじ」について講義をお願いした。

a) 実施要領

実施要領の骨子を次に示す。

- 集合時刻
7月13日（土） 午前10時30分
（鑑賞時刻11:00～13:00）
- 集合場所
国立劇場大劇場入口前
- 対象
二年生全員（現地集合、現地解散）
- 演目
「仮名手本忠臣蔵」五段目・六段目
- 費用
個人負担（学年費から支出）
観劇料1,300円、イヤホンガイド370円（一人の負担額）
- 引率者
二年次担任団、国語科（計11名）

*歌舞伎鑑賞教室パンフレットより



b) 生徒の感想

芸術鑑賞会の次の週に、「感想文」と「舞台図」を書かせた。感想文はA4用紙に15行程度である。舞台図は、記憶に残っている場面を舞台図として書かせた。

感想文については、どの生徒も紙面が埋まるほど感想を書いていた。芸術鑑賞会が生徒の心に何らかの影響を与えた証左であろう。感想の内容は歌舞伎に対するイメージが大きく変わったとするものが多かった。「話の筋に引き込まれた」「舞台のしくみに感動した」「日本の伝統に触れられた」という感想が多かった。異文化理解が自国文化理解の上に構築されるべきであるという考えから企画した行事であったが、生徒の感想文は、芸術鑑賞会が日本文化の価値を見直す機会となっていることを示すものであった。

次に数名の感想文(抜粋)と舞台図を紹介する。

・A男

ストーリーに引き込まれ、勘平に感情移入してしまい、最後の切腹のシーンではもう少しで泣いてしまうところでした。歌舞伎を見られて非常によかったです。これで、日本の誇れる伝統芸能を外国の人に聞かれても説明できます。

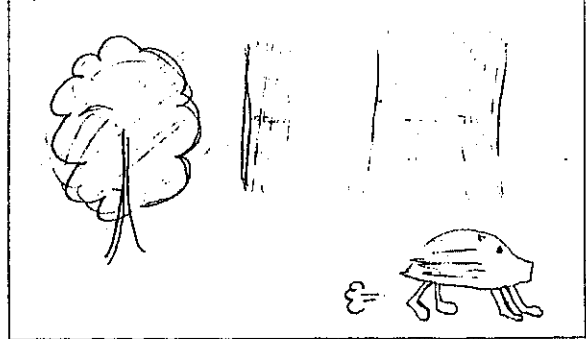
・B子

いくつかの楽器だけでいくつもの場面や状況を表現するなんてとても大変なことだと思う。雪が降る音や物を落とす音などすごく感動した。日本の文化はすごいと思った。

・C子

イメージがすごく変わりました。昔からあるものなのにあまり知らない世界だった。ちょっとは日本文化に触れられたと思います。

舞台の一場面を思い出して、舞台図を描きましょう。



(4) キムチ講習会

事前調査等によれば、生徒の韓国料理への関心は強い。それに反して辛い物に対しての不安は強い。韓国の料理で知名度一位はキムチである。ところで日本産の未発酵「キムチ風浅漬け」が韓国のkimchiと異なることを韓国側では国際規格に登録するなどして強調している。発酵以外にも、原材料の韓国唐辛子と日本唐辛子が、似て非なる物でありながら歴史的に強い関連を持つことなどについて、1年次末の生徒への事前学習で紹介した。食の分野での異文化に触れる体験学習を目的として、代表食品であるキムチ作り講習会を実施することにした。保護者へも参加を呼びかけ、異文化理解の事前学習について理解を得ることにした。

講師には、韓国本場のキムチとその食文化となる背景までを紹介してもらうため、近隣地区内の韓国食材の専門店から韓国出身の講師に依頼した。

キムチ講習会後の生徒のアンケート調査結果を以下に紹介する。

◇今回の「韓国キムチ」作りに用いなかった材料当てクイズ

わさび・しょうが・ザラメ(砂糖)・ごま・トマトケチャップ・唐辛子 粉・白菜・大根・人参・ピーマン・リンゴ・ニラ・玉葱・ごぼう・ニンニク・アミの佃煮・アミの塩辛・鰯のエキス・煮干し・米粉の糊

(結果略)

◇キムチ作り体験の感想

- ①大変おもしろかった 17%
- ②おもしろかった 37%
- ③まあまあだった 32%
- ④あまり楽しめなかった 12%

◇韓国キムチ作りで関心をもったことは何か(複数)

- ①ヤンニョム材料が多彩 39%
- ②ヤンニョムの唐辛子の量 47%
- ③ヤンニョムを混ぜるところ 11%
- ④白菜にヤンニョムを塗るところ 22%

- ⑤講師の説明内容 9%
- ⑥その他 8%
- ◇今まで考えていたキムチと違いがあったか
 - ①予想したよりも複雑だった 33%
 - ②予想したとおりのものだった 31%
 - ③予想したものより単純だった 23%
 - ④その他 8%
- ◇今回作ったキムチの味についてあなたの感想
 - ①大変おいしいと思った 4%
 - ②おいしいと思った 37%
 - ③まあまあな味だと思った 25%
 - ④おいしくなかった 7%
 - ⑤嫌いなので食べなかった 15%
- ◇今回作ったキムチの家庭での評判
 - ①評判が良かった 33%
 - ②まあまあだった 46%
 - ③評判が悪かった 9%
- ◇“キムチは〔〇〇〕である”という定義の正解は
 - ①キムチは〔漬け物〕である 27%
 - ②キムチは〔あえ物〕である 2%
 - ③キムチは〔サラダ〕である 6%
 - ④キムチは〔発酵食品〕である 62%
- ◇講師の話の内容で興味深く感じたことは
(略)
- ◇他にやってみたい講習会
(略)

既に個人研究等でキムチの知識を得ていた者もいたが、発酵食品であることや食材の種類など高い正答率を得、概ね生徒はキムチ作りについて、食材の多彩さや唐辛子の量、またそれに対して辛さよりも旨味を感じ、発酵させるとなお美味しいなどといった内容を興味深く学びとったようである。

ただし、大勢で行う調理実習の一つとして捉えた生徒も多く、臭みの強い食材を用い、それらを切って混ぜるだけという作業自体には人気は少なかった。

原材料(種類のみ)を紹介する。

白菜(塩水に一日漬け、水気をきって準備)

ニンニク、生姜、韓国唐辛子、玉葱、大根、人参、ニラ、アミ塩辛、鰹エキス、米粉の糊

“本物のキムチ”を再現することを目標にしたため、予想以上に多彩・他種類の食材料を用意することとなり、材料費が高んだことが反省点である。例年ビビンバを家庭一般の授業の一調理実習に組み込んで指導してもらっていたが、今年度はこのキムチ講習会のみを実施した。

(5) 学習ノート

今回2年次の事前学習では、一人一人がテーマを持って研究を進める個人研究がメインとなった。その学習資料として今回採用したのが、JTBとベネッセが共同で開発した「体験学習ノート」である。この学習ノートは日韓比較、言語、伝統文化、インターネット事情、歴史、食文化など、14のコンテンツからできている。主に「総合的な学習の時間」で活用してきたが、この資料だけを進める時間を確保するのは難しく、結果的にはすべてを埋めることができなかった。しかし、この学習ノートは、個人研究のテーマ決めや個人研究を進めていく上で、非常に有効であったと思う。それぞれのコンテンツには韓国の最新情報や、さまざまな文化についての記述があり、またその項目に関連した本やインターネットのURLなどが載っているため、研究を進めていくためのサポート教材として大いに役立った。特に韓国の留学生を迎えての語学学習や、韓国人講師を招いてのキムチ作りでは、この学習ノートを利用して個人的に事前学習をすることができたと思う。今後はこの学習ノートをメイン教材とするのか、副教材とするのかを明確にすることが、この学習ノートをより有効に使う方法であると思う。

学習ノートの例
(ベルリッツ学習ノートより)

The image shows a page from a learning notebook with three distinct sections, each with a title, a short text introduction, and a diagram or image with a corresponding question.

- テーマ 歴史 (Theme: History)**: The text asks to look at a photograph of a Korean traditional house (hanok) and write down what was learned. Below the text is a photograph of a hanok and several horizontal lines for writing.
- テーマ 習慣・文化 (Theme: Habits/Culture)**: The text asks to look at a diagram of a traditional Korean stove (jangjuk) and write down what was learned. Below the text is a diagram of a stove and several horizontal lines for writing.
- テーマ 言語 (Theme: Language)**: The text asks to use a provided table to write the Korean words for 'thank you' and 'kimchi'. Below the text is a table with Korean characters and their corresponding Japanese readings, and several horizontal lines for writing.

(6) 個人研究

個人研究は校外学習にむけて、「総合的な学習の時間」に”異文化理解”というテーマで様々な角度から、

* 研究テーマ一覧

韓国校外学習 個人研究タイトル一覧

CLNo	タイトル	CLNo	タイトル
A 男	韓国の音楽について	B 女	韓国の環境問題について～韓国の廃棄物～
A 女	韓国の童話から見た日本のすがた	B 女	音楽効果と楽器
A 男	日本人・韓国人相互の意識	B 女	韓国の行政・若者
A 女	どのようにして孤児は生まれたのか	B 男	テコンドー
A 女	冠婚葬祭からみた韓国文化	B 女	日本の女学生、韓国の女学生
A 女	キムチについて	B 男	韓国のスポーツ
A 男	韓国の伝統ある人気のあるスポーツ	B 男	韓国パソコン事情
A 女	日本と韓国の行事食	B 女	韓国料理の味付け
A 女	韓国人の暮らし	B 女	韓国の伝統的な建物について
A 男	韓国における風水について	B 男	韓国の食文化
A 男	韓国若者事情	B 男	隣国の音楽事情
A 男	韓日の文化比較	B 男	日本、韓国の生物教育について～生き物と人との関わり～
A 男	韓国と日本の国交	B 男	韓国人の国民性
A 女	韓国人と日本人の性格の違い	B 男	韓国のペットの種類
A 男	韓国の宗教と生活様式への影響	B 男	韓国側から見た日本の歴史
A 女	韓国食文化比較	B 女	韓国人と日本人の価値観の相違
A 男	韓国の食文化について	B 男	日本人から見る韓国とその逆の比較
A 女	韓国と日本の学期	B 女	韓方における韓国
A 女	韓国人の価値観と日本人の価値観の比較	B 男	韓国の自動車産業について
A 女	韓国の常識やルール	B 女	本当のキムチ
A 男	なぜテコンドーができたのか	B 女	韓国の家庭料理(おふくろの味)
A 男	日本と韓国の属人制の違い	B 男	離乳食について
A 男	韓国の自動車産業	B 男	韓国の交通
A 女	韓国のファストフード店について	B 女	キムチ
A 女	韓国での服について	B 男	日本と韓国の音楽
A 女	在日コリアンと歴史	B 女	ハンブルを通してみた韓国
A 男	日韓の文化比較	B 男	在日コリアンの国籍問題と参政権と年金制度について
A 女	韓国の健康的な美容法	B 女	日本と韓国の切手比較研究
A 女	体にいい韓国料理	B 女	日本の桜と韓国の桜
A 男	韓国の伝統的遊び	B 女	韓国と日本の食文化・習慣の違い
A 男	韓国の伝統芸能と音楽	B 女	韓服(チマチョゴリ)の伝統と日本の着物(ゆかた)との比較
A 男	日本人と韓国人の音楽への関心の違い	B 女	韓国の伝統工芸について
A 女	韓国の美容エステについて	B 女	ワーキングホリデーについて
A 女	日本と韓国の歴史観のズレ	B 女	韓国の伝統工芸
A 女	現在のソウルと過去のソウルの比較	B 女	韓国の産業
A 男	神話・民話の歴史的背景	B 女	韓国のファストフード
A 女	キムチ好きの韓国人	B 男	韓国のスポーツ
A 女	韓国と日本の間に昔起こったこと	B 女	日本美人と韓国美人
A 女	韓国神話のもたらしたモノ	B 女	韓国の婚礼の歴史

研究テーマは1年次における事前学習の影響のあるテーマが多く見られた。また、発表会を2回行った。第1回は9月9日に分野別の発表会を行い、本校における文化祭(黎明祭)において父兄や一般の人を対象に発表会を行った。

a) 中間発表会(分野別)

担当者や2年次担任団の指導に基づいて、生徒が研究を行った。以下が各生徒のテーマである。

CLNo	タイトル	CLNo	タイトル
C 女	韓国のニセモノブランド事情	D 女	韓国の食文化
C 女	東アジアをつなぐアザランと民族格差意識	D 女	韓国におけるインターネット事情
C 女	韓国料理の食べ方～おいしかったです～	D 女	韓国の家庭料理
C 女	韓国の繁き上げた歴史	D 男	日本と韓国
C 男	韓国文化の変化について	D 女	「トッケビ」の正体は?
C 女	高麗人が日本に与えたもの	D 男	日韓におけるの儀敬
C 女	韓国の音楽(K-POP)	D 女	古代文化の発展と根づく思想
C 男	韓国人の愛国心の強さの秘訣	D 男	歴史と風水の関係
C 女	「ゆとり教育」における受験制度について	D 男	韓国の格闘技「テコンドー」とは
C 女	反日感情と親日感情	D 女	韓国の音楽
C 男	産物文化の違い	D 男	韓国経済の発展と今後
C 女	コミュニケーションの方法に於ける日韓の違い	D 女	ツアーで行く歴史ある韓国の名所
C 女	韓国のお祭りについて	D 男	韓国の近代史
C 女	韓国のファストフードについて	D 女	韓国の伝統建築
C 女	韓国の生活様式	D 女	日本語と似ている韓国語
C 女	韓国の家具について	D 女	韓国の祝祭日
C 男	韓国の国宝について	D 男	韓国人の性格と社会とのつながり
C 男	韓国の文化	D 女	韓国の観光地について
C 男	歴史教科書問題を振り返る	D 女	朝鮮半島ではなぜ金属製の箸を使うのか
C 女	ネイルアート	D 男	韓国的IT
C 男	韓国の音楽について	D 女	犯罪について
C 女	庭園	D 女	日本と韓国の伝統的な民家の違い
C 女	韓国の人の服装	D 女	著作権について
C 女	韓国と花(植物)の交わり	D 男	韓国の年中行事について
C 女	韓国語を知る	D 女	これからの幼児からの英語教育
C 男	韓国的一般常識とマナー	D 男	韓国人の生活
C 女	儒教の影響を受けた韓国人の習慣	D 男	韓国映画の世界
C 女	韓国の食文化について	D 女	韓国人にとっての月の存在
C 男	日韓関係	D 男	歴史
C 女	韓国の観光名所	D 男	韓国の歴史教育
C 男	日本文化と韓国文化の歴史的接点とは	D 女	韓国と日本の調味料の違い
C 女	韓国のお店	D 女	韓国の伝統(生活・文化)
C 女	韓国語と日本語	D 男	韓国の国技「テコンドー」と「シルム」の歴史と発展
C 女	日本と韓国のエンターテインメントの違い	D 女	韓国の歴史文化の探究
C 女	日韓特有の楽器と祭り	D 女	日本から見た韓国、韓国から見た日本
C 男	韓国の交通	D 女	生活に根付く宗教
C 男	韓国人が漢字を使わない日本人に対しての気持ち	D 男	韓国李朝時代の身分差別
C 男	日本と韓国の古代建築	D 男	韓国の歳時記
C 男	韓国の軍隊		
C 女	韓国の伝統芸能について		



b) 中間発表会（黎明祭）



c) 個人研究中間発表会（黎明祭）の反応

個人研究についての中間発表会をおこなった。おおむね良好な反応であった。以下にその時に参加していた人の感想を示す。

・皆さんすべてが素晴らしいです。研究内容もそうですが、発表方法・ポキャブラリーの多さにも感心しました。
一般（40歳代）

・しっかり発表していて驚きました。修学旅行前に、こうした勉強をしておくことは、大変意義深いと思います。楽しく有意義な修学旅行となるでしょう。

2年次保護者

・企画はとてもいいことだと思います。パソコンを手足のように使いこなしているのに関心しました。今後はないようを深めてほしいと思います。特に「今起こっている問題・将来のために考えなければならないこと」といった視点が必用だと思います。

一般（40歳代）

(7) ホームステイ

a) 今年度ホームステイを取り入れるにあたって

本校の校外学習を修学旅行と称しないその理由は、学習活動であり観光旅行でないことの意味を強めてのことでもある。教官側は生徒に広く国際社会の異文化を体験し新鮮な感動を獲得させたいと意図している。しかし、日本を離れて外国での行動であるので、安全性を考慮するあまり、既製の“用意された異文化”を見学するだけにならないよう、冒険の度合いの少ない部分を反省した。一般には、流暢な日本語で説明してくれるガイドに付き添われ、バスでクラス単位の移動をし、クラスの友達とだけ話し、買物も日本語で対応してくれる店員のもとで生活することで観光修学旅行は終わる。この環境に置かれれば出発から帰宅まで日本語と日常の仲間の内で過ごしてしまうのが常である。景色こそハンゲル文字の看板

に囲まれるが、このように日本人と接して帰ってきただけでは、異文化に触れ国際観を養う学習にはならない。実感のない外国旅行では、若者の意欲・冒険心をくすぐる内容には足りないことの反省である。

今年度実施を決定したホームステイは、観光地まわりではなく韓国の一家庭に入ること、韓国の生活や生活観を学び取るために実感をともなった体験型の学習活動ができることに価値をおいている。

保護者へは、1年次1月末に保護者会においてホームステイ実施計画を説明した。反応は比較的好意的に受けとめた意見をいただけた。

b) ホストファミリーについての要望

ホームステイの実施に当たって、現地の町へ旅行業者を通じて要望したことは次のようなことであった。

① ソウル郊外の家を希望

ソウル市内の近代的な集合住宅ばかりに偏ることのないようにしたい。

② 交流会で訪問する高校生の家庭を希望

交流会での対面が楽しみとなり、喜びとなる。

また、友情も強まり、帰国後の交流につながる。

③ 事前のホストファミリーとの情報交換を希望

事前の手紙やEメール等での連絡・交流を行った上で交流会及びホームステイを行いたい。初対面での不安を軽減するためと、互いの要望など伝達しやすい間柄を築きたい。

c) ホームステイを実施する上での問題点

ホームステイおよび交流会の対象となる町が決定し、現実的になったところで、生じた問題点は以下の通りである。

① 地域が遠方すぎた

決定した受入れ地域はソウル市内から遠距離であり、旅行の行程に強く影響した。ただし、町は大変好意的で、市長より早くからウエルカムレターをくださったり、案内担当者の対応も良かった。

② ホストファミリーと高校生の家庭とを一致させることができなかった。

③ 事前の情報交換は手紙でとhot mailを活用して事前の情報交換が行えた。

d) 一泊ホームステイの意義について

ホームステイは全体の行程のなかに組み入れるため一泊のみであり、生徒とホストファミリーとの交流は時間的には短いものである。安全や生徒の精神的・身体的な

疲労など考えると一泊でも意義ある体験が可能であると思うが、この点については賛否の分かれるところであろう。

e) ホームステイ参加者の募集について

ホームステイ参加の希望を募るにあたり、生徒全員に事前アンケートを実施した。以下はその結果である。

(アンケート実施：4月22日)

◇ホームステイへに関心はあるか

関心ある 68% (男子54%、女子78%)
ねらいがわからない 15% (男子21%、女子11%)
関心ない 13% (男子22%、女子7%)

◇ホームステイ参加を希望するか

参加希望 22% (男子14%、女子26%)
迷っている 34% (男子29%、女子37%)
希望しない 42% (男子54%、女子34%)

◇希望者がホームステイに期待するもの

生活文化の違い体験 38% (男子27%、女子45%)
韓国人の考え方知る 19% (男子16%、女子21%)
語学の勉強になる 20% (男子11%、女子26%)
おもしろそう 25% (男子24%、女子26%)
その他 8% (男子7%、女子7%)
交流したい、貴重な体験だと思うなど

◇希望者が事前準備したい内容

語学学びたい 50% (男子38%、女子58%)
メール交換など 20% (男子13%、女子24%)
生活習慣伝統文化 28% (男子19%、女子35%)
両国の歴史学ぶ 17% (男子16%、女子18%)
その他 6% (男子8%、女子4%)
話す内容決めておく、宿泊のマナー、日本文化、日本の料理など

◇全員に。事前研修の希望はあるか

インターネット翻訳 78% (男子43%、女子35%)
韓国料理研修 49% (男子37%、女子58%)
韓国の方の講演 18% (男子17%、女子19%)
その他 10% (男子17%、女子5%)
韓国の国技、音楽、芸能、文化、歴史、生活習慣、国語講座など

◇ホームステイに対して不安に感じていること

言葉が通じない 78% (男子73%、女子82%)
習慣が違う 49% (男子51%、女子48%)
食事内容 27% (男子27%、女子27%)
その他 14% (男子24%、女子7%)
相手が歓迎してくれるか、反日感情、考え方の相違、

コミュニケーションとれるか、一泊で理解できるか、仲の良い人と組めるかなど

以上から、過半数の生徒が関心をもったが、参加については1/5の生徒が希望し、1/3の生徒が迷っていると答えた。また、韓国の人と友達になりたいと思っているが、コミュニケーションの取り方については不安が強く、言葉の問題のほか反日感情や宗教上のことなどを理由に述べる生徒が多かった。語学学習については当初より予定はあったが、生徒の期待も大きいことがわかった。

また、韓国の料理について興味を持つ生徒が多い反面、日本の料理や日本の生活を紹介したいと、意欲を述べた生徒がいたことも、我々を活気づけた。

f) 希望調査

希望を強制せず、クラス内での体験談紹介により共有が行われるよう計画していった。生徒の不安などを考慮し、ホームステイの希望条件を以下のようにした。

- ① 2名で一組とし、男子のみか女子のみで組むこと。
- ② クラスを越えての編成を許可する。

ホームステイ希望調査は7月に実施、同時に質問内容などを記入させた。その時点での質問内容の主なものは「言葉が話せない不安」「歴史上のことを言われる不安」「辛い食べ物に対する不安」などであった。11月に再度追加の希望調査を実施し決定した。

人数予想はクラスに2割と考え、4組(8名)、年次全体で16組(32名)程度のホームステイ希望者を想定していた。結果は男子8組、女子24組の計32組(66名)が名乗りをあげた。

g) 参加者の手続き・今後の日程

11月末にホストファミリーを決定するためのマッチングに入るため「ホームステイ アプリケーション フォーム文書」に自己紹介とアピール文を英文で記入し、写真貼付で提出した。中にハングル文字で記入した意欲ある生徒も2名いた。

今後は希望者に対して説明会を実施し、指導していく内容は下記のようなものがある。

- ① 韓国の生活の紹介(韓国の旅行業者による説明)
- ② ホームステイのマナー()
- ③ 手紙またはEメールでの情報交換の方法

(8) 交流会

地元の生徒とふれ合う交流会は、とても生徒にとって大切な経験となる。そのため内容については下見をもと

に教師及び校外学習係の交流会担当生徒と充分話し合った。相手校は外国からの多数の交流は初めてということもあり、あまり無理な企画を考えるのではなく一般的なものを行うことにし、セレモニーとして学校代表挨拶、生徒代表挨拶、出し物、その後生徒同士の交流として本校生と韓国の生徒がペアになり、韓国の生徒に校内を案内してもらいながらコミュニケーションをそれぞれが図っていくという計画である。なお出し物としては①全員で「少年時代」（井上陽水）を2部で合唱する。②有志で韓国の生徒も知っている歌をアカペラで歌う。③有志で「東京音頭」の盆踊りを浴衣で踊る。④有志で創作ダンス。計15分を考えている。①に関しては音楽担当教諭に支援協力をお願いし、④に関しては体育担当教諭に支援協力をお願いしている。2年次の集会などがあるときは①の練習を必ず行うようにし、LHRなどの時間も活用し各クラス練習している。②～④については放課後や昼休みを使い生徒は自主的に練習を重ねている。また事前リハーサルも兼ねて、保護者会に有志の出し物を披露する事にしている。

4. おわりに

各項目における教育的効果について検討を行うと次のようになる。

「担任団による韓国講座」については、1年次において韓国校外学習に向けて各担任団より、それぞれの専門分野・得意分野を中心として韓国講義が行われた。生徒は大変熱心に聞いており、1年の時期に翌年の総合的学習に向けて、個人テーマ設定に向けて取り組むことは、きわめて有意義であった。

韓国留学生による「韓国講座」は例年行われていることであるが、実際に韓国で経験したことを、伝えることは異文化理解の観点から有意義である。

「芸術鑑賞会」については、異文化理解の一つとして、自国の文化理解も大切な事である。今回、本校において初めての試みであった芸術鑑賞会は古き良き日本文化を見直すことにおいて意義あるものであった。生徒の感想にもあるように今までに知らなかった日本文化の再発見・感動について認識を新たにしたのであった。

「キムチ講習会」については、韓国食文化の代表的なキムチについての講演と実際にキムチ作りの体験を行うことは異文化理解の観点から良好であった。

また、日本人向けにアレンジされたものでなく、本物の他国の味や製法を学ぶという点において韓国の方から直接教えを受けたことの効果が大きかった。

本校における「総合的な学習」の2年次における取り組みは調べ学習のみではなく、韓国について様々な角度から教師サイドより指導していくことは、これまでにない取り組みであった。今回使用した「学習ノート」はベネッセが作成した、各学校の要望を取り入れたセミオーダー的な要素が強い。したがって当然、各時期により学習ノートを取り入れて指導を行うことは有効であった。

これまでの様々な角度からの指導・行事等をもとにして個人研究レポートを作成しまとめる作業を行った。個人研究レポートは生徒がそれぞれの立場から興味・関心を持った事柄について研究を行ったものである。また、従来と異なることは、各専門分野の担当者からアドバイスを受け内容の充実が行われたことである。今後は来年度の続報で評価を含めた報告を行う予定である。

参考文献

筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要 第39集 2001

「2年次韓国校外学習への取り組み」

筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要 第39集 2001

「わさびと唐辛子」

工藤文三（国立教育研究所）2001

高等学校「総合的な学習」の運営と実践事例 学事出版

